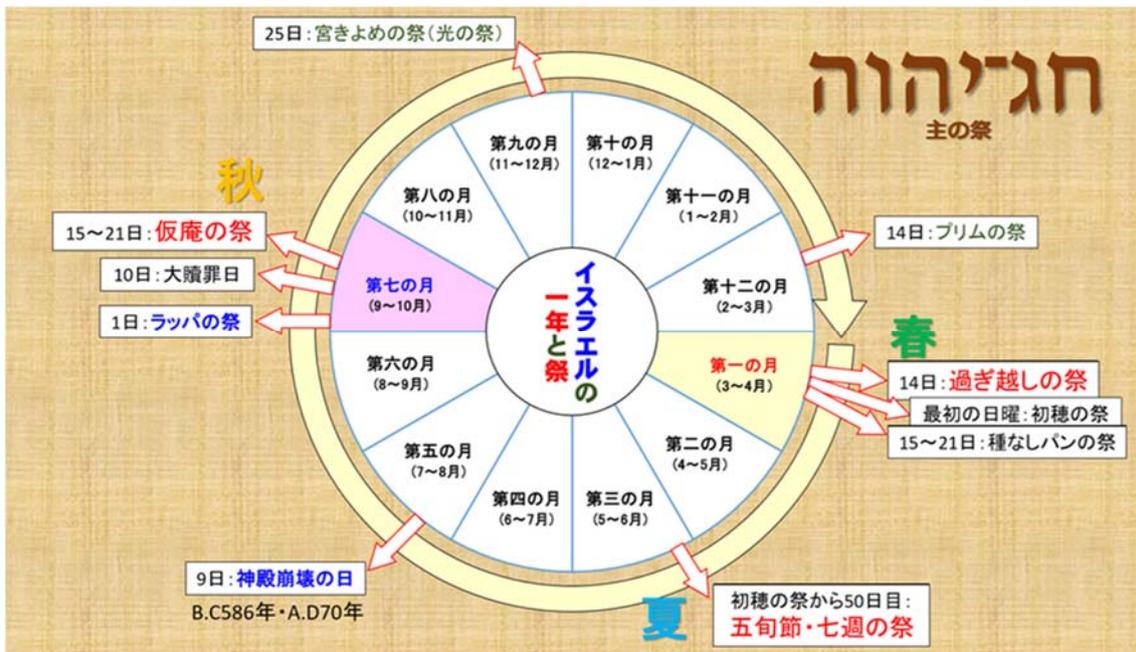


イエシュアが誕生された日はいつか

●この問いを探るための、手掛かりとなる聖書の箇所を見ていきます。

1. イエシュアが受胎したのは、エリザベツが受胎した日の六か月目(ルカ 1:26)
2. バプテスマのヨハネが受胎したのは、父ザカリヤが務めの期間が終わった後(ルカ 1:23)
3. ザカリヤが神殿で祭司の務めをしていた期間はいつか。彼はアビヤの組の者であった(ルカ 1:5、I 歴代誌 24:10)。アビヤの組の務めの期間は第八番目。今日でいうなら、7月の前半(1~15日)に務めの期間となります。その務めを終えてからエリサベツが妊娠したことになります。そして「月が満ちて」、バプテスマのヨハネが生まれます(ルカ 1:57)から、誕生は 4 月中旬頃になります。
4. ザカリヤがその務めの期間を終えるのは 7 月 15 日以降で、それから 6 ヶ月目は **12 月中旬にマリアが受胎します**。その場合、1 ヶ月目の数え方は、満でなく数えで表現します。それから 280 日後(「時が満ちて」ルカ 1:57)にイエシュアが誕生するとすれば、そのときはいつでしょうか。「ティシュレー」の終わりころ、10 月中旬となります。つまり、イエシュアの誕生日は**仮庵の祭りの**終わり頃となります。
- 5.



●バプテスマスのヨハネもイエシュアも、「月が満ちて」生まれています。つまり、早産はなかったということです。人間の妊娠期間を 280 日であることは、以下の「幕屋」にも表されています。



●幕屋の東側の門の部分を除く「**亜麻布の庭の掛け幕の全長**」が、なぜ「280」キュビトなのか、その理由は、**280**が人間の妊娠期間である**40週の数だからです**。7日×40週=280日、これが掛け幕の全長280キュビトが示しているのです。イエシュアが人となられたことを示しています。

●ちなみに、イエシュアの受胎の時期は今日の太陽暦でいうなら12月の中旬から下旬の間です。ユダヤの暦ではちょうどその頃は「**ハヌカの祭り**」の時期です。別名「宮きよめの祭り」とも「光の祭り」とも言われます。この祭りの起源は旧約と新約の中間時代に起こった出来事に基づいているために、聖書にはこれについての記述がありませんが、イエシュアはこの祭りを祝うためにエルサレムへ上られたという聖書の記述がヨハネの福音書10章22～23節にあります。

「そのころ、エルサレムで、**宮きよめの祭り**があった。時は冬であった。イエスは、宮の中で、ソロモンの廊を歩いておられた。」

●イエシュアが宮きよめの祭りに行かれる途上で、生まれつき目の見えない者の目を見えるようにする「シロアム」の奇蹟があります(ヨハネ9章)。この奇蹟の意味することは、イエシュア自身が「**わたしが世にいる間、わたしは世の光です**」(同、9章5節)と述べられたように、ご自分が「世の光」として来られた(受胎した)ことを宣言しています。その意味するところは、世に対する神の永遠のご計画を知らせることであり、「光」とは、神がなそうとしておられる永遠のご計画のことなのです。